

## 〔公益5〕大学教職員の職能開発及び大学教員の表彰

### 5-1 情報通信技術を活用した優れた授業研究の評価と表彰

#### <事業計画>

情報通信技術を活用した教育力の向上を推進するため、文部科学省の後援を受けて全国の大学・短期大学を対象に「ICT利用による教育改善研究発表会」を継続実施し、学士力の実現に効果的な情報通信技術の活用研究を選考・表彰し、インターネット等による公表を通じて教育改善の研究を啓蒙・普及する。

#### <事業の実施状況>

事業の実施は、「ICT利用教育改善発表会運営委員会」を継続設置して「ICT利用による教育改善研究発表会」を開催し、優れた教育方法を選定・評価・表彰した。以下に、委員会の活動状況を報告する。

#### ICT利用教育改善発表会運営委員会

平成26年5月10日、平成27年1月17日に平均7名又は8名が出席し、2回開催した。ICT利用による教育改善研究発表会における発表募集の要項作り、1次選考・2次選考の実施、研究論文の査読と論文誌の刊行、本協会Webサイトでの公表を行った。

##### (1) 発表の募集

本事業が教育の質的転換の実現につながることを強調するため、発表募集要項の募集タイトルに「学士力の実現に向けたICT利用」を掲げるとともに、能動的学修（アクティブ・ラーニング）への双方向的授業、教室外の事前・事後学修などの取り組みの推奨を明示して募集を行った。

##### (2) 研究発表の選考

- ① 運営委員会で52件の応募について書類選考を行い、49件の発表を確定したが、後日3件辞退があり、最終的な研究発表は46件となった。
- ② 1次選考は、平成26年8月8日に東京理科大学で発表者と参加者157名で開催し、選考規程に基づき次のような基準で選考した。
  - \* 教育上の問題解決を図るために、ICTを利用した教育改善の目的・目標が明確に示されていること。
  - \* ICTを利用した教育改善の内容と方法が明確に示されていること。
  - \* 客観的な評価方法により、教育改善の効果が明確に示されていること。その結果、9件を選考した。詳細は、事業報告の附属明細書【2-8】を参照されたい。
- ③ 2次選考は、同年10月4日に実施し、1次選考の発表ビデオと発表論文をもとに授賞基準に沿って実施した結果、以下の通り、私立大学情報教育協会賞1件、奨励賞2件の授賞を決定した。

## 平成26年度受賞者

### ★私立大学情報教育協会賞（1件）

「学修成果の蓄積とパフォーマンス評価を実現した学修システム群の構築」

大手前大学 芦原 直哉、畑 耕治郎、正田 浩三

#### 【授賞理由】

本研究は、問題解決能力を涵養するため、3つの基盤能力と10のコンピテンシーからなる能力体系を構築し、知識偏重型教育から能力開発型教育へ転換した取り組みである。LMSとeポートフォリオ機能を実装した大学独自の学修支援システムを構築し、蓄積、振り返り、発展のステップで現状を認識し、成長を確認する4年間蓄積型の授業支援の仕組みで、学生・教員・外部の教育ボランティアによる評価モデルを確立し、教育の質保証の重要なエビデンスとしている点で優れている。

### ★奨励賞（1件）

「ICTを用いた協働自律学習プロセスの可視化がPBL成果のクオリティ向上に及ぼす効果」

東京電機大学情報環境学部 木村 敦

#### 【授賞理由】

本研究は、協働学習におけるPBLの質を高めるため、学習意欲やグループ活動の記録を可視化するシステムを構築し、現状把握と問題の早期発見・解決を通じて円滑な協働学習を支援する試みである。問題解決力の向上など、システム導入による効果が定量的に示されており、主体的な学びの促進に貢献している。

### （3）選考結果の表彰

表彰は、平成26年11月25日の第11回臨時総会で発表者を招待し、実施した。

### （4）論文誌の発行

2次選考の対象論文について査読を行い、9件の論文を確定した後、平成26年11月25日に論文誌「ICT活用教育方法研究」として1,800部発行して配布した他、機関誌及び本協会のWebサイトで公表した。

